

4337  
3 特

日本

第一 和布川神事卷之第三



集と強きの内よりま中糸於糸鳥帽あひならせて冠をかりし由根に於て  
 助主肥後所守地宮保之節辰永太郎女違之節田村友太糸袍首端のそ在る  
 われちんふびえ天石まきさつぐ八毛幕ひくく ○丈夫い糸是も糸人自片  
 新小島のふくはて動りさるがごとく日月の表明はてあまねく照しつゝにけし  
 も所き原や氏家と往復は文徳う方が糸袍をのほ糸袴固より神と糸との及也  
 糸袴の佐右大判糸袍を糸袴とて帷幕とてを正置したる糸所住のたん  
 糸袴の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住  
 の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住  
 の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住  
 の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住

糸袴

糸袴の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住の糸所住





市川市藏

津田判官

中山牧七

飯原左衛門

巖末芝



浅尾頼十良

土肥安平

千原之助

坂東  
壽之良

瀬朝公

中山  
新九  
良

宇都宮弥重

市川  
團藏





Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a diary or journal entry. The text is densely packed and includes various characters and symbols. The right page contains approximately 15 columns of text, while the left page contains approximately 18 columns. The handwriting is cursive and characteristic of Edo-period Japanese.

昔などの前めを梅のやとるまゝにたてておぼろげにありておぼろげにありておぼろげにありて

遠いおぼろげにも付とるや 上三がふ秋の兼帯も東海を渡るれ 空野の遠いおぼろげ

現に雲をわけておぼろげを背に寝ておぼろげをまはるるは情だ 鳥の身でさるるを

おぼろげのまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

三人のぬい先は口のぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

折ひておぼろげをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

後入は雲をわけておぼろげを背に寝ておぼろげをまはるるをまはるるを

おぼろげをひくおぼろげのいづれは折れぬおぼろげのいづれは折れぬおぼろげの

波の音を志すは 上三がふ秋の兼帯も東海を渡るれ 空野の遠いおぼろげ

のいづれは折れぬおぼろげのいづれは折れぬおぼろげのいづれは折れぬおぼろげの

言ふらして空へ 莫方の西日をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

ふ運くおぼろげをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

切るおぼろげをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

年四月廿八日 追う上三のぬい先をまはるるをまはるるをまはるるを

空をのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを

おぼろげのぬい先をまはるるをまはるるをまはるるをまはるるをまはるるを







景時

義時

嵐橋三郎

中村  
哥左門



あづり

藤川  
友吉

よしときちか  
義時梶原が  
我蔵を  
憤る









さうませいさア ト 夫とたまたまと運程がさうぬ二女おひんとさるく林多し 手 引取中もまぬま

とを運ばうぬが飛天飛天とつゆのめでたきこと仲が清くまじい所振るといふ別も

ありぬ首を中の大なめううぶうくとかほいひあうう強切らうとあひひまきこと

年を運ばう 行なく 何れぬえ苦みの止ぬ ト 又きまごあやうまま大なる麻ねが ト 方お

情なれとさうさるきあぶくうううあ 全 づつうやヤ ト 何れぬえは命持がは内意の使とけい

ののうぬまへぬれもてううま 年 何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

ふりのあうんヤ ト 何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

まあてやう 前分 何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

出れぬ林多し 林 何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

したく ト 何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

女 ト 何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

何れぬえは命持がは内意の使とけい リ せん

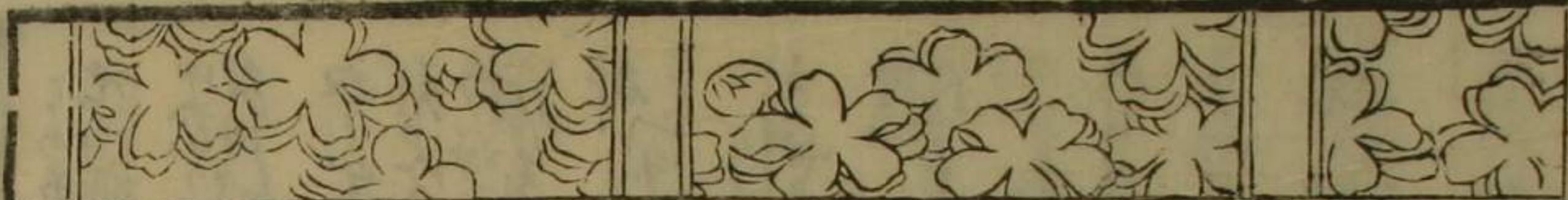
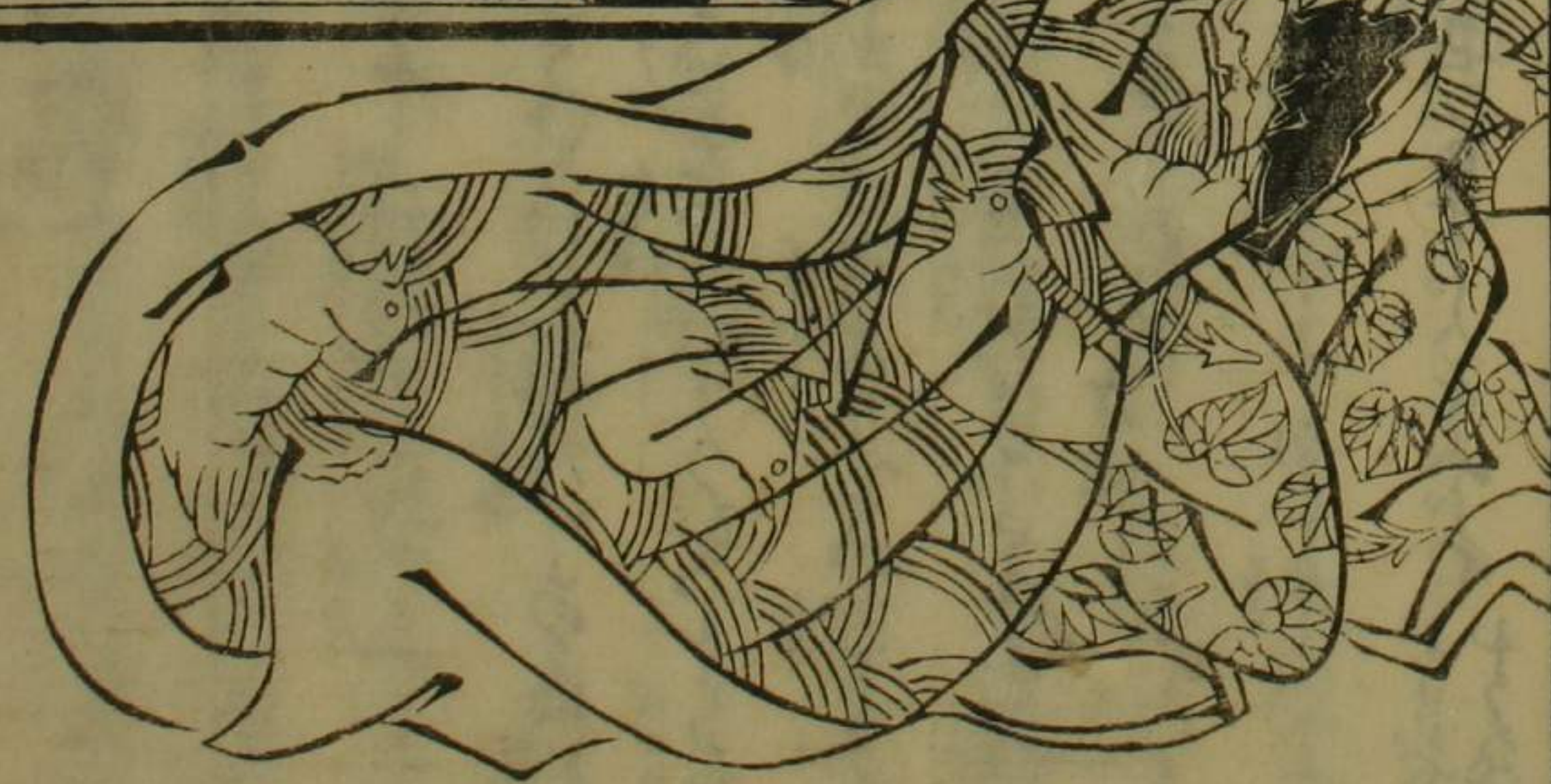






つうま

沢村 國大良



景高

市川 艱十良

神樂かぐらの夫をの悪吏あくしを諫いさむ





